

戦争と平和の資料館

ピースあいちニュース

第5号

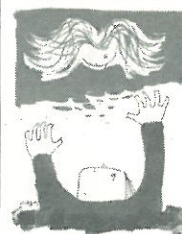
2009年4月1日発行

〒465-0091

愛知県名古屋市長久区

よもぎ台2丁目820

電話・FAX 052-602-4222



発行：戦争と平和の資料館ピースあいち <http://peace-aichi.com/> 【定価:30円】

開館2周年を記念して

「教科書にみる戦争と平和展」を開催!

—2009年5月12日～6月27日—

「ピースあいち」は、この5月で開館2周年を迎える。これを記念しての特別展のテーマを「教科書にみる戦争と平和」とした。学校で使われる教科書が、時代とともにどのような内容になっていったかを実物資料と解説で迎えることにした。その概要は次の通りである。



教科書は時代とともに

明治維新後、新政府は国家の近代化のために「富国強兵」をめざし「殖産興業」に力を注いだ。教育の面では文部省を新設、国民教化のため小学校教育の普及に力を入れ、男女等しく学ばせる国民皆学の建設をめざした。一方国家指導者を養成することを目的とする高等教育の設立も図った。

展示では小学校における教科書の変遷を振り返る。教科書自由採択の時代から始まり、検定時代国定1期、国定2期…という形で現代までに分けて、教科書が時代とともにどのように変貌していったかを見る。

15年戦争と教科書

「教育勅語」は教育の根本理念を説き、この謄本を全国の学校に下付し、荘重な奉読式を行わせた。「教育勅語」を暗誦させ、「君が代」を斉唱し、宮城の方角に向き遙拝する。こうして日本を神の国と説き、「忠君愛国」を刷り込んだ。

戦時となれば軍国美談を聞かせ、「八紘一宇」の名の下に少国民を戦争に協力させる教育を進めた。軍国教育一色となった時代の姿を振り返る。

唱歌と習字にみる「時代・戦争・世相」

唱歌とは、明治新政府の文部省（音楽取調掛）によって作り出された新しい歌曲をいう。小学校の授業用であるが、校門から出ても広く歌われていた。戦時になると、戦意昂揚のため「軍国歌謡」が多く作られていった。

習字のお手本も戦争への協力を誓う文言が示されていた。こうした時代の様相を振り返る。

教科書にみる女子教育の変遷

明治政府は日本の近代化に力を注いだ。教育の場で女子の就学が完全に定着したのは明治末期である。それは「良妻賢母」を育てることを目的とし、主として「裁縫」であり、中等教育では「家事経済」（衣・食・住、育児、家事衛生など）である。15年戦争期になると、望ましい母親を育成するため、“愛するわが子が死ぬことこそ、愛する子を永遠に往かず道”と教える教科書が出てきた。

戦後、小学校と高校に「家庭」科目を創設、中学では「職業」と「技術」に区分、当初は男女共修であったが、間もなく女子のみとなる。近年になって再び男女共修となって今日に至っている。

今、教科書は…

教科書がどのような経緯で子どもたちの手に届くのか。日本の教科書と共に韓国・中国など外国の教科書を展示して、教科書が戦争の歴史をどのように教えているのかを解説。併せて教科書検定制の実態と教科書裁判の経緯を呈示する。

ピースあいち2周年 ピースまつり開催!

開館2周年を祝うため、お祭りを催すことにした。5月5日(火・祝)と6日(水・休)の2日間、1階と3階で合唱やバンド演奏、子どもの玩具を修理する「おもちゃ病院」の開設。そして「あいち女性九条の会」などの協力を得て、バザーや物産展、カフェも店を開き、祭りを盛り上げる。

2年目を振り返って

ピースあいち館長 野間 美喜子

「ピースあいち」は、間もなく開館2周年を迎える。来館者の多い日も少ない日も、館内にはいつもボランティアさんやスタッフ5～6人が集い、ピースあいちのことを考え、話し合い、時には、暮らしのことなどさまざまな話題にも花が咲く。ピースあいち2年目のこうした何でもない平穏な日々は、とても素敵で貴重に思う。

2年を経て、「ピースあいち」は多くの人に支えられ、少しずつ世の中に認知され、平和に向けた拠点として市民権を得てきたように感じられる。学校からの子どもたちの来館も確実に増えている。開館1年目の戸惑い多かった時期は過ぎ、昨年11月から新しく専従になった竹内宏一さんも業務にすっかり慣れ、ガイドチーム、イベント班、資料班、調査研究グループなど活動の体制も整ってきた。5月の2周年記念企画の準備も進んでいる。「ピースあいち」は、アクティブミュージアムとして、本格的な活動ができる萌芽が生まれつつあるようだ。



これは、「また、館長の楽観論」と言われそうな2周年

目の感想であるが、「館長の悲観論」と言われるよりいいかとも思う。財政の厳しさは相変わらず解決されないが、そのために緊張感が常に消えないのがいい。

若い仲間からの力強い声も届く。英国で平和学を学んで、今は現地のNGOで働いている竹内・吉岡のペアからは、「あと1年こちらでがんばったら帰国して、何か平和のためのプロジェクトを立ち上げたい」との決意表明が届いているし、大学で平和学を学んでいるSくんからは、「3年に進級し、学芸員の資格に臨み、名古屋へ戻って働く日を夢見てがんばります」という手紙が来た。「ピースあいち」は、いつか必ず若者たちの手に渡せる日が来るにちがいない。

核兵器のない世界をめざして— 第五福竜丸展

—2009年2月24日(火)～4月11日(土)

ビキニ水爆実験被災55年「第五福竜丸展—ヒロシマ・ナガサキ・第三の被爆」を「ピースあいち」で開催中。名古屋では初めての開催です。

1954年3月1日、アメリカは太平洋・マーシャル諸島のビキニ環礁で水素爆弾の実験を行いました。たまたま操業中の静岡県の大石漁船「第五福竜丸」が被爆、無線長の久保山愛吉さんが亡くなりました。これを契機に原水爆禁止の運動が始まりました。

東京・夢の島にある第五福竜丸展示館から、この時の死の灰・水爆マグロの鱗・ガイガーカウンターの現物とともに、現地の島民の被害の様子を伝えるパネルや当時の水爆マグロの騒ぎを伝える愛知の報道記事などを



大石又七さんの講演会。たくさんの方が熱心にお話を聞いていました。

お借りして展示。DVD上映もあります。

3月7日(土)には第五福竜丸平和協会事務局長の安田和也氏の講演会、3月14日(土)には第五福竜丸元乗組員の大石又七氏の講演会がありました。

2008年7月～2009年4月のイベント活動報告

「ピースあいち」には20人の事務局スタッフと70人ほどのボランティアがいます。これらの人々で幾つかのプロジェクトチームが作られていて、その一つに「イベント班」があります。このチームでは、常に当館の運動に相応しい情報を集め、多彩なイベントを企画しています。新鮮な話題を提供し、運動の拡大に努めています。

■「15歳の語り継ぐ戦争 わたしの聞いた戦争 見た広島」(7月4日～8月30日) 金城学院中・高校生の発表展示で、前年に引き続き平和学習のまとめは熱心な生徒たちの様子がかえりました。

■「ヒロシマ/ナガサキ原爆パネル展」(7月16日～8月9日) 原爆被害を物語る写真や資料と、原爆の影響などを子どもにもわかりやすく学べるサイコロQ&Aなど、工夫した展示でした。

■「絵で見る学童疎開展」(8月12日～30日) 全国疎開学童連絡協議会が多くの体験者の話を元に構成して描かれた絵と、愛知県下での体験をもとに小島鋼平さんが作られた紙芝居「昭和の学童疎開」を展示しました。夏休み中の子どもたちには、戦時下の生活を知る機会となりました。

■「戦争体験を聞く会」(8月2日～16日) 恒例の夏企画で、全11回の体験談をお聞きしました。

- 2日 遠藤泰生さん 「広島被爆体験」
- 5日 白井門治さん 「豊橋空襲」
- 6日 井上葉子さん 「広島被爆体験」
- 7日 長坂宗子さん 「学徒動員と東南海地震」
- 8日 加藤清高さん 「中国戦線にて」
- 9日 中直敏さん 「長崎被爆体験」
- 12日 杉山常男さん 「ニューギニアにて」
- 13日 小島鋼平さん 「学童疎開」
- 14日 伊藤佐和子さん 新宮二千世さん 辻野とみさん 「千種の空襲」
- 15日 天野鎮雄さん 「戦時中のくらし」
- 16日 木下信三さん 「学童疎開」

■「イラク帰還米兵「アッシュ・ウールソン君の講演と交流会」(8月29日) 100名を超える参加者で大変な熱気となりました。自分がなぜ戦争に行かねばならなかったのか、アメリカの抱える貧困、社会問題や影響……。『憲法9条を守っ

てほしい』と強く語る26歳のアッシュ君に、高校生らも真剣な眼差しで耳を傾けていました。

■「広河隆一の見たパレスチナ」写真展(9月16日～10月11日) NPO広河隆一非核・平和写真展開催を支援する会の協力で開かれました。展示された遺留品は正に生々しい傷跡でした。9月23日には理事長の林恒弘氏の講演「広河隆一の写真をめぐって」が行われました。

■「ソンミ村虐殺40周年が問いかけること」(10月11日) ベトナム友好協会の主催でした。「4時間で消された村—ベトナム・ミライ」をビデオ上映し、民間人の無差別攻撃事件の跡を辿った後、南山大学の藤本博先生の解説があり、現地から来名したグエンさんとファンさんも講演をして下さいました。

■角英夫さん講演会「戦争をどう伝えていくか」(11月9日) NHKチーフプロデューサーの角英夫さんが番組取材活動を通してのお話をされました。愛知の空襲被害の認識にも非常に助けとなり、伝える大切さを共感しました。

■「ピースあいち所蔵品展～文書資料を中心として」(12月9日～2009年2月14日) 常設展示にはない新聞やかるた・すごろくなどをご覧いただきました。

■ひとり芝居『花いちもんめ』(10月19日)

■第3回天野鎮雄さん朗読会(2月22日)『黒島伝治を読む』

■「映像による学習会」は毎月第2土曜日夕方に行っています。ご近所の方にも気軽に参加して戦争や平和を考える場としていただく事を目的として、これまでに14本の映画・DVDを見ました。これからも評判の名作を取り上げていく予定です。



「人を愛すことで平和になる」

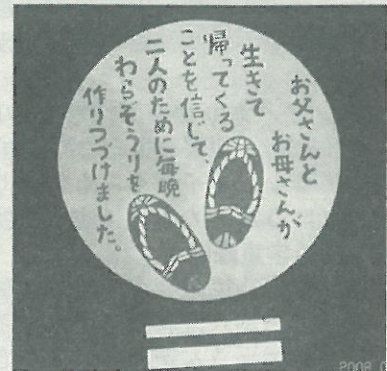
来館者の思い…… アンケートから

来館者にアンケート用紙を配り、感想やメッセージを書いてもらっています。開館以来、1000以上の回答が寄せられています。さらに、来館した感想や平和への思いを手紙で送ってくださる方もいます。その一部は1階に展示しています。

これらを読んでいて気付いたことがあります。それは来館者層に偏りがあるということです。60代以上が圧倒的に多く、20代では研究に来る大学生、社会見学で来館する小・中学生、ならびに高校生が続きます。一番少ないのは、社会の中堅になっている30代・40代の中間層です。

今号ではその一部、2008年9月から2009年1月までのアンケート・手紙を紹介します。

(題は編集子がつけました。)



2008年8月5日、広島市の平和記念公園に展示されていた影絵

戦争はやってはいけない (豊橋市 女性 11歳)

戦争と平和の資料館ピースあいちに行って、声が出ないほどびっくりしました。昔にあんなことがあったなんて、やっぱり考えられなくて本当にあったのか、どんな気持ちだったか、それは知りません。生まれてなかったから。

写真を見てビックリしました。見て私よりも小さな子がもう生きていない弟か妹をおんぶしていました。私より小さな子が、親はいなくて生きている。今じゃ本当に考えられない事だ。戦争はいけないことだと思った。やってはいけなかった事だと思う。もしできるなら、世界で戦争をやめさせてほしいと思います。

多くの人の命が奪われることは悲しい

(名古屋市 女性 14歳)

はじめてここに来たが、私の知らなかった戦争の裏側をたくさん知れてよかった。資料もたくさんあって、驚くようなことが色々あって、とても勉強になりました。

今までも戦争はいけないと思っていたけれど、このピースあいちを見てその思いがさらに深

まりました。戦争は絶対やってはいけません。多くの人の命が奪われることほど悲しいことはありません。何よりも、自分のため、自分が生きるために、やってはいけないと思います。

何かできることを考えたい

(大府市 男性 18歳)

3階にある展示品で子供が戦争の絵をかいたのがありました。その絵には、あたりまえのように血を流している人がかかれています。見ていてすごく考えさせられるような絵でした。世界では、今でも戦争や内戦などで血を流している人達がいる。自分には何ができるのか、少しでもいいから、何かできる事を考えないといけない気持ちになりました。

実感できた戦争 (名古屋市 男性 22歳)

頭ではわかっているけど目や耳で感じないとわからないことがある。そのことに触れることができるとよかった。写真などは他で目に見てもカルタや外国の当時の新聞が見れたり、偏った視点から見るとは違って様々な視点から戦争の悲劇さが伝わってきてよかった。

平和へのサイクル (名古屋市 女性 21歳)

医師の目から見た戦争と平和というテーマで研究しており、その勉強のために訪れました。今までこの館の存在を知りませんでした。多くの若者がここを訪れ、何かを知り、行動を起こすことに期待しています。

過去を知ること、知ったことに対して自分自身の意見を持つこと、それを人に伝えること。それが平和へのサイクルだと思います。全ての人がこのサイクルを行えば、永遠に平和は保たれるのではないかと思います。

人を愛すことで平和になる

(弥富市 女性 35歳)

人間は自分らが自ら不幸な目に遭わないと色々悩んだり、考えたりしない。だからこういった資料館の存在がないと困るのです。大々的に知られるべきです。

まずは自分を愛すること。そうすれば誰かを愛せます。一人一人ができたら、世界はきっと平和になります。

子どもが生まれ戦争を考える

(名古屋市 女性 48歳)

子どもが生まれ、やっとやっと、命のこと、生きること、戦争のことを考えるようになりました。戦争が終わってから60年たった今です。私が生まれたのが戦後15年、たった15年しかたっていないことに気がつきました。ただ、中学のときに見た戦争映画が印象的でした。何も悪いことをしていない、子どもや母親が逃げまどい銃でうたれて殺されてしまうシーン。あの時「戦争はイヤダ」と思いました。今もイヤです。子ども2人にどうやって戦争のことを語ろうか難しいのですが、今2人の子どもは「戦争はイヤ、だめ、怖い」という気持ちを持っています。ここから始まるのが大切なのでしょうか。

戦争にひきこまれないように

(静岡県 女性 53歳)

誰に聞いても戦争はいやだといいます。こ

の気持ちをひとつにして具体的に政治や政策に反映していかなければ、いつの間にか、知らぬ間に戦争にひきこまれていきます。今まで戦争を起こしてきた過程も多分そうだったのでしょう。行動を起こさなければ同じ過ちを起こしてしまう。強くそう思いました。

正しい歴史教育を (三重県 男性 63歳)

私達の父、祖父達が命令とは云え、海外の人民に多大な被害を与え、戦後63年になるのに、権力者・政府は真実を認めないばかりか正当化する状況です。真実を語り、正しい歴史教育をすべきであります。戦争の真実を知り平和で安心して暮らせる社会に。

助け合い感謝の心 (名古屋市 女性 75歳)

私は小学校(国民学校)5年・6年の時に体験しました。食べ物がなく、どんぐりを集め燃料にするということで多く集めたりしました。展示されているものはほとんど知っております。戦争をしてはいけません。皆さんが助け合い感謝の心で過ごせたら平和な生活が生まれると信じています。

戦争を語るべきであった

(名古屋市 女性 81歳)

終戦になり、戦争について語りたくない時期がありました。今思い直せば「何故戦争はいけないか」をもっと語るべきであったと思います。

今、遅まきながら戦争のない世界になるように語り伝えています。

もう一度人生をやり直したい

(彦根市 男性 92歳)

22歳~30歳まで満州高射砲隊から船舶歩兵として6年、南方輸送の護衛にたずさわリ、最後は北朝鮮清津にてソ連参戦のため上陸南下中に終戦。元山まで徒歩南下すれども北朝鮮国境に通れず、元山にて軟禁、半年間苦しんだ。

戦争なんてするもんでない。何の為に此の世に生をうけたのか。もう一度人生やり直したい。でもいのちがない。

無念と戦争の残酷さを伝える無言館

昨年10月20日、「無言館と信濃路を訪ねるツアー」が20名の参加を得て行われた。絶好の秋空のもと、テレビ塔下に集まった一行はマイクロバスで中央道を一路信濃路へ向かい、お昼少し前に無言館に到着した。

塩田平の小高い所に無言館はある。無言館は、先の戦争で絵筆を鉄砲に持ち替えて戦地へ赴き、帰ることのなかった若き戦没画学生たちの遺作を展示している。建物は、その収蔵物にふさわしく修道院を思わせる。館内は、抑えた照明が厳かな雰囲気醸している。傷んだものもあるそれらの絵は、それと対峙する来館者に彼らの無念と戦争の残酷さを無言のうちに語りかける。そして絵に添えられた説明文が、残された人たちの癒えることのない悲しみを伝えてくる。この来館者は自然と寡黙になり、話し声もひそやかになる。

見終わって色々な思いを胸にした一行を乗せたバスは、陽光の中、今回のツアーのもう一つ



の目的である評論家玉村豊男氏が経営する「ヴィラ・デスト」へ向かった。

すばらしい眺望をもつしゃれた大賑わいのレストランで遅めの昼食をとった。自家製の野菜を使った欧風料理と自家製のワインで大いに盛り上がった。レストランを出ると遠い山並みから信州の野を渡ってくる風が実に爽やかである。

帰路、江戸時代の北国街道の海野宿での散策を最後にバスは、名古屋へと向かった。

展示ガイド 養成講座・勉強会

2008年3月から11月まで全9回の講座を行いました。第1回・第2回「あいちの空襲」西形久司先生、加藤中子さんの体験談。第3回・第4回「戦争の全体像 15年戦争」丸山豊先生。第5回・第6回「戦時下の暮らし」坂井栄子さん。第7回・第8回「現代の戦争と平和」南守夫先生。第9回特別講座「戦争の記憶をどう伝えていくか」角英夫さん。出席者は平均27名。

この講座から15名のガイドが誕生し、活躍しています。最初はためらいがちだった人もすぐに慣れ、ガイドをすることがボランティア活動のさらなる充実につながっていると言えそうです。

ガイドは来館30分前に集合をして、誰がどういう順番で案内をするか、時間配分の打ち合わせなどをしますが、予定通りにいかないこともあります。反省会では「限られた時間内に何を



どう伝えるか苦労します」「語りたことは多く、時間内に終わるのは容易ではないです」「同じ展示室で複数のガイドさんが一緒になるときは、お互いに声の大きさや距離に気を配り、譲り合わなければうまくいきませんね」などの意見がでます。

生徒さんのお礼の言葉を聞いたり、後から届く感想文を読むのもガイドの楽しみです。

総合学習発表会を参観

—日本の歴史を調べた78人—

南区春日野小学校6年生の総合学習発表会に招かれ、当館のボランティア7人が参観した。いたち招待状はプリントされたものではなく、児童の皆さんが手書きで書いたもので18通届いた。

今年の1月22日の発表会のテーマは、「歴史を調べる」というもので、2組の児童78人が休憩を挟んでの第1時限と第2時限で発表した。「法隆寺の七つの謎」、「見晴台遺跡」といった様々なテーマとともに、昨年11月20日に「ピースあいち」を見学した報告も幾つかあった。

児童の皆さんは、それぞれ手作りの説明書を用意していた。B紙1枚にテーマに添った絵を描き、これに説明文が添えられていた。これをボードに掲示する。「戦争中の食料」、「空襲と焼夷弾」、「学童疎開」などと、テーマを絞り、その内容を頭にたたき込んで、暗記しての発表であった。

それぞれ見事な発表ぶりであった。PTAの保護者の方々も耳を傾けていた。この発表をまとめ上げた担任の先生の指導力にも感銘した。発表する児童の皆さんの目はキラキラ輝いていた。発表を終えたあとは、流石にほっとした表情で、級友の発表に聴き入っていた。



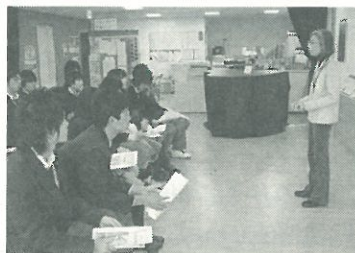
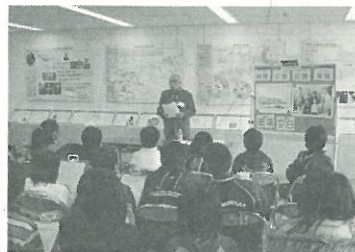
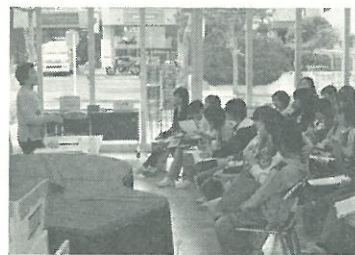
たくさんの児童・生徒が団体見学で来てくれました。

08年8月から09年2月17日現在までの学校団体来館状況は、小学校13校720名、中学校10校218名、高校2校85名、合計25校1,023名。11月は51%を占め、8月夏休み期間中の一般子ども488名を上回り、2月も健闘しました。大半の学校は展示のガイドと戦時の体験談を希望します。

中学校1年生の女子生徒が、「命の壁」の前で突然声をあげながら泣きだしました。生徒さんが寄り添い背中を撫でながら「だめだよ、ちゃんと見ないと」「そうだよ、ここに書いてあるでしょう、眼をそらさないでくださいって」。感受性豊かな年頃の生徒さんたちに、ピースあいちが発する平和へのメッセージを受け取っていただけたのではと思います。

●月別団体見学

8月	1校	29名
9月	2校	19名
10月	7校	190名
11月	9校	522名
12月	1校	20名
1月	1校	44名
2月	5校	199名



平和を訴える主役—所蔵資料

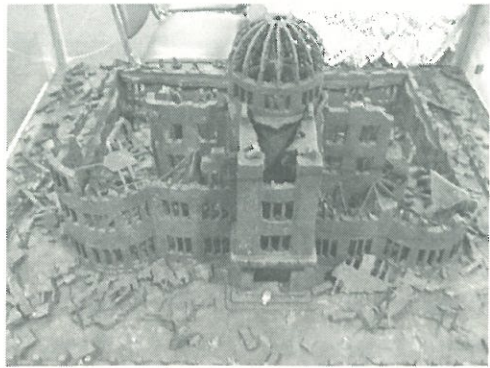
現在、所蔵資料は3,300点ある。内訳は物資資料1,500点、文書資料1,800点。そのうち寄贈分は600点であり、今も寄贈が続いている。その際、「寄贈を受ける価値の有無、既保有か否か」などの観点から受けるかどうかを決める。担当者はお断りする時には、辛い思いをする。新規資料は防虫処理、清掃をした上で、番号を付けて写真を撮り、表題や寄贈者名などを付けデータベースへ入力する。最近、ホームページで見ることができるようになった。そして必要事項を記入したタグを付け保存処理をして保管庫に収納する。資料が古いものであり、取り扱いには慎重を要する。こうして所蔵された資料が平和を訴える主役になって活躍している。



ピースあいちHPでもご覧いただけます。

2階展示室の鉄製模型「原爆ドーム」

昨年の夏に企画した「ヒロシマ／ナガサキ原爆ポスターパネル展」で展示し、ピースあいちに寄贈されたものです。名古屋空襲で多数の死者が出た愛知時計で溶接技術を学んだ高木昇さん（故人）が、職人芸を生かして5年がかりで制作した鉄工芸（縦横90cm、重さ約60kg）。無残に被爆したドームと建物、力を振り絞って川へ向かう被爆者の姿も正確に復元されています。戦争の悲惨さを体験し、平和を願った高木さんの思いが伝わってきます。



ピースあいちの運営を支えてください。

ピースあいちの運営資金は、正会員・賛助会員の会費収入と寄付金によってまかなわれています。年間会費＝正会員6千円、賛助会員3千円。ぜひ会員になって、一緒に「ピースあいち」を支えてください。

○正会員は無料入館バスの特典

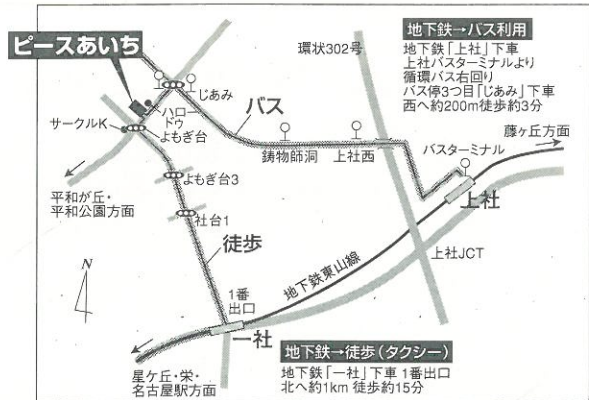
*お申込みは郵便振り込み用紙で、またはピースあいちにて直接お申し込み下さい。

*法人向けには、「ピースあいち支援団体」になっていただき、毎年一定額（1口1万円）のご寄付をお願いしています。

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 閲覧料 大人 300円 小中高生 100円
- 閲覧料を頂くのは、2階の展示室です。1階にも「現代の戦争と平和」というテーマでの展示と戦争に関する図書のリブラリーがありますが、無料でご自由に閲覧できます。
- 団体やグループ、学校などの見学会で開館時外に来館ご希望の方は、ご相談下さい。
- 駐車場がありません。公共交通機関でおいで下さい。
- 夏期休館 2009年8月30日(日)～9月7日(月)

■「ピースあいち」への交通のご案内



●編集後記●

開館して間もなく2年になる。この間、当館に寄せられた「平和へのメッセージ」は1000通を超える。戦争体験がある方、戦後生まれの方と世代は様々であるが、その思いは「二度と戦争を起こしてはならない」という点で一致している。

春日野小学校6年生の発表会では、「ピースあいち」を見学した報告に止まらず、感想を述べる子どもさんもいた。ある男の子は、「これからの平和は僕たちで築かなければならないと思いました」と結んだ。

昨今の若者は古語を知らないし、ボキャブラリーは乏しく、単語を並べるだけという人が多いと聞くが、この学校ではしっかりした子が育っている。この国も捨てたものではない。(S)